

180-参・経済産業委員会 平成 24 年 06 月 14 日

※A I J 問題への質問に対する厚生労働副大臣としての答弁

○二之湯智君 これは直接経済産業省に関係ない質問かも知れませんが、最近いろいろと話題になっておりますA I Jの問題について最後に大臣にお伺いしたいと思うんですが、結局、政府・民主党は、今度の年金消失問題は自己責任に当たる部分が多いんじゃないかと、こういうことであるわけでございますけれども、一方やはり各地の中小零細の企業が参加する総合型の年金基金は、本当にこの問題で今青息吐息の状態でございます、代行部分のいわゆる消失でそれぞれの企業はもう脱退するにも脱退できない、そして連鎖倒産があるかも知れないと、こういうことで、この年金基金の役員改選を迎えて、役員になるなり手もないというのが非常に大きな問題になっておるわけですね。

これ、全国的に非常に影響が大きいわけでございます、中小企業に与える影響は大変大きいわけでございますから、単なる年金問題というんじゃなくて、中小企業の対策として、政府としてはこの問題の解決にどのような考え方を持っておられるのか、お聞かせをいただきたいと思うわけでございます。

○副大臣（辻泰弘君） 二之湯委員御指摘のとおり、A I Jに投資していた厚生年金基金の大半は中小企業が集まってつくるいわゆる総合型でございます、今回の問題は中小企業の経営並びに従業員の老後の生活に大きな影響を与えるものと考えておまして、中小企業への影響につきましては注視すべき課題であると、このように考えております。

厚生労働省といたしましては、A I J問題発生後、中小企業への影響も含めた厚生年金基金への影響について分析を行い、全体状況の把握に努めてきたところでございます。そして、現在、この度のA I Jへの投資が各基金それぞれの財政に与える影響についてデータを収集、分析しているところでありまして、これを踏まえて各基金ごとに個別に対応していきたいと考えているところでございます。

なお、厚生年金基金制度全体につきまして、資産運用、財政運営の両面から検討するために、四月十三日に厚生労働省内に有識者会議を設置いたしまして、これまで六回にわたりまして御議論をいただいております、今月末をめどに取りまとめを行う予定にさせていただきます。

今後、与野党からいただいております御議論なども踏まえまして、厚生労働省として、代行制度を始めとする厚生年金基金制度全体の在り方を検討し対応していきたいと考えております。